



共創による新しい価値の創造

HANNAN

SDGs未来都市



はんなん海洋リテラシー

(スタート版)



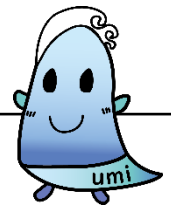
令和5年3月

阪南市海洋教育推進協議会

阪南市教育委員会

【はんなん海洋リテラシー】

はんなんのうみからわたしたちが受けている様々な影響について理解し、そして、はんなんのうみとわたしたちの未来に向けてできることは何かを考え発信していくこと



【はんなん海洋リテラシーとは】

阪南市の海洋教育は、学校現場の少数の先生たちの主体的な教育実践からスタートしました。先生方が子どもたちと体験活動をしていたところに、多くの団体やボランティアの方々に参加していただき、「海洋教育パイオニアスクールプログラム」の助成を受け、現在、市内の小学校で行われている海洋教育となりました。

阪南市版の海洋リテラシー「はんなん海洋リテラシー」は、学校教育に根ざしたものとからスタートします。

これは、現在、教育委員会と学校が共有するものとなっておりますが、今後については、「海洋教育」を持続可能な教育の取組とするために、学校教育に限定するのではなく、社会教育として「海洋教育」を根付かせていく必要があります。そのため、次年度より市民との協働により「(仮称)はんなん海の学校」を創設することで、社会教育として子どもや若者を中心に「海洋教育」に関する専門的な内容の講義や体験など気軽に学べる機会を提供してまいります。

「はんなん海洋リテラシー」は市民の皆さんと共有するなかで、様々な方の声や視点を取り入れながら、これからも発展していきます。

【はんなん海洋リテラシーを構成する5つの原則】

1. はんなんのうみはわたしたちと海全体をつないでいる。
2. はんなんのうみには多種多様な生き物がいて、命のつながりがある。
3. はんなんのうみがすばらしい自然環境を支えている。
4. はんなんのうみは特徴ある文化、産業を生み出している。
5. はんなんのうみはわたしたちの未来につながっている。



【阪南の海洋教育において「はんなん海洋リテラシー」を育成するための方針(ねらい)】

(※本方針は「はんなん海洋リテラシー」を構成する5つの原則の同じ番号に対応している)

1. はんなんのうみに出会い、親しむ (*キーワード A) [副読本：P42～49, 56～63]

- ・身近に多くの生き物を育む海があることを知り、体験学習で五感を通して海に興味関心をもつ。

2. はんなんのうみのすばらしさを知る (*キーワード A、B) [副読本：P4～15]

- ・海には多種多様な生き物がいることを知り、その生命のつながりを知る。また、それらの生き物によって私たち人間の生活も支えられていることを知る。

3. はんなんのうみと川や山とのつながりを知る (*キーワード B、C) [副読本：P16～27]

- ・海の環境を守るためには、海だけではなく川や山の環境を守り、育てていくことも大切だということを知る。

4. はんなんのうみの文化、産業について知り、伝える

(*キーワード B、C、D) [副読本：P50～55]

- ・阪南市の産業である漁業やワカメ、ノリやカキの養殖等について学び、地域の方とのふれあいで地域が海との暮らしの中で受け継いできた文化に触れ、その歴史について知る。

5. はんなんのうみと自然環境のこれからについて考え、行動する

(*キーワード C、D) [副読本：P28～41]

- ・阪南市の豊かな自然を守っていくために、そして、大阪湾や世界の海をはじめとする自然環境をきれいなまま未来に引き継ぐために、自分たちに何ができるのかということ、海洋教育の豊かな自然活動を通して身につけた、主体的に課題を発見し解決しようとする態度や学んだことを活かそうとする力で考え、行動する。

*これまで、阪南市が海洋教育を推進してきたうえで大切にしてきた【海洋教育の4つのキーワード】

A「海に親しむ」

海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通じて、海に対する豊かな感受性や海に対する関心を培い、海の自然に親しみ、海に進んで関わろうとする子どもたちを育成すること。

B「海を知る」

海の自然や資源、海をとりまく人や社会との関わりについて関心を持ち進んで学ぼうとする子どもたちを育成する。

C「海を守る」

海の環境について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて、海の環境保全に主体的にかかわろうとする子どもたちを育成する。

D「海を利用する」

水産物や資源、船舶を用いた人やものの輸送、また、海を通じた世の人々との結びつきについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解できる子どもたちを育成する。

出典：『21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン（小学校編）～海洋教育に関するカリキュラムと単元開発』

はんなん海洋リテラシーを育むための発達段階別育成目標



方針 学年	1. はんなんのうみに出会い、親しむ	2. はんなんのうみのすばらしさを知る 3. はんなんのうみと川や山とのつながりを知る	4. はんなんのうみの文化、産業について知り、伝える	5. はんなんのうみと自然環境のこれからについて考え、行動する
小学校 低学年 (1, 2年)	・海辺での遊びや生き物などとのふれあいを通して、海の自然に親しみ、海を身近に感じることができる。	・海の生き物の名前や特徴等に関心を持ち、進んで調べることができる。		
小学校 中学年 (3, 4年)	・海の環境を保全する活動を通して、自然環境の状況や自分たちの生活が自然に影響をおよぼすことを知り、進んで海の自然を守ることができる。	・海の生き物の特徴や、その生育環境の違い等を、作品作りや体験活動を通して学ぶと共に海の楽しみ方を知ることができる。	・地域の人々の生活や仕事、季節の変化に気づき、海と関わり暮らす人々とふれ合うことができる。	・海の環境を保全する活動を通して、自然環境の状況や自分たちの生活が自然環境に影響を及ぼすことを知り、進んで海の自然を守ることができる。
小学校 高学年 (5, 6年)	・海に関わる仕事の体験や施設の見学を通して、海の自然や文化に親しんだり、海に関わる多様な仕事にふれたりして、進んで海に関わることができる。	・海の生き物の多様性や生態系、海の歴史や文化に関心を持ち、関連付けたり推測したりして調べることができる。	・聞き書き等を通じて、漁業も含めた地域の歴史や文化について学び、6年間のまとめとして今後活かす。 ・日本の水産業や海運、海洋自然について調べ、人々の豊かな生活を支えてきた海の様々な役割やきまりを理解するとともに、海を利用することの大切さに気づくことができる。	・地域の特性を生かした海の産業や、日本各地は海によってつながっていることを知り、海とともに生活をしようとする ・地球規模の環境問題や国際的な取組を調べ、海の環境保全のために自分たちができることを考え、様々な方法で取り組むことができる。